

平成 31 年度（令和元年度）

# 第 1 回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会

【四万十市産業振興計画 5 年間の取組みについて】



## ■ 5 年間の取組み概要

農業分野 (P. 1)      林業分野 (P. 2)      水産分野 (P. 3)

商工業分野 (P. 4)      観光分野 (P. 5)

## ■ 産業分野別 5 年間の取組み（詳細版）

農業分野 (P. 6~P. 9)      林業分野 (P. 10~P. 11)      水産分野 (P. 12~P. 13)

商工業分野 (P. 14~P. 16)      観光分野 (P. 17~P. 19)

# 1 農業分野

戦略	主な取り組み (H27~H31)	取り組み効果及び課題等	新たな取り組み等	主な指標																																			
① 産地としての維持・強化	<b>【施策1】 戦略品目の生産拡大</b> ●ぶしゅかん産地化推進事業の実施（苗木、鳥獣害対策の支援等） ○ぶしゅかん生産者組合設立、栽培マニュアル作成、栽培管理の徹底 ★栗活性化プロジェクト事業、栗暮 project 等実施（苗木新植、縮間伐等の支援、平場転換の推進等） ○新規品目「わさび」の栽培実験 ○米ナスの産地強化（産地提案書、移動式雨よけ栽培等） <b>【施策2】 生産性の高い栽培技術の導入</b> ○環境制御装置の導入を推進（H27-H30：20戸） ○園芸用ハウス整備を支援（H27-H30：14件） ○農業経営発展のための農業経営塾の開催 <b>【施策3】 集落営農の推進</b> ○集落営農の組織化（H26:20組織⇒H30:31組織） ○集落営農組織の法人化（H26:2法人⇒H30:4法人） <b>【施策4】 生産・出荷支援システムの構築</b> ◆ぶしゅかんの搾汁・加工施設を整備 ○集出荷体制の支援と自主運営（5組織） ○無料職業紹介所を幡東エリアに開設	戦略品目のぶしゅかん、栗及び四万十農法米の生産等を推進し、天候などの影響により上下するものの生産量は上昇傾向にある。また、農業者支援、生産性の向上、営農組織の設立・強化、生産システムの構築などの取り組みにより、農業算出額が増加している。 <b>【課題】</b> ・人口減少による担い手の確保や労働力確保、農作業の省力化 ・集落営農の組織の強化（広域連携） ・収益を高めるための高付加価値化（ブランド化）と情報発信（認知度向上）など	<b>【施策1】</b> ④ぶしゅかんの産地づくり【農AP1】 ・産地化計画の策定 ・定植後の圃場管理体制整備 ④栗暮projectの推進【農AP3】 ④米ナスの振興【農AP4】 ④新規品目「わさび」の栽培実用化に向けた取り組み【農AP5】 <b>【施策2】</b> ④先端技術を活用した園芸施設や園芸システム等の普及促進【農AP8】 <b>【施策3】</b> ④集落営農組織の広域連携の推進【農AP9】 <b>【施策3】</b> ④地域内農業者の共同生産体制の構築【農AP13】	<b>戦略品目等の生産量推移</b> <table border="1"> <caption>戦略品目等の生産量推移 (単位: t)</caption> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶしゅかん生産量</td> <td>15.1t</td> <td>22.1t</td> <td>26.1t</td> <td>23.3t</td> <td>28.1t</td> </tr> <tr> <td>栗生産量</td> <td>13.0t</td> <td>16.0t</td> <td>22.0t</td> <td>18.0t</td> <td>16.1t</td> </tr> <tr> <td>四万十農法米生産量</td> <td>4.92t</td> <td>11.94t</td> <td>29.6t</td> <td>33t</td> <td>33t</td> </tr> <tr> <td>ゆず生産量</td> <td>445.0t</td> <td>310.0t</td> <td>486.0t</td> <td>384.0t</td> <td>490.0t</td> </tr> </tbody> </table>	品目	H26	H27	H28	H29	H30	ぶしゅかん生産量	15.1t	22.1t	26.1t	23.3t	28.1t	栗生産量	13.0t	16.0t	22.0t	18.0t	16.1t	四万十農法米生産量	4.92t	11.94t	29.6t	33t	33t	ゆず生産量	445.0t	310.0t	486.0t	384.0t	490.0t					
	品目	H26	H27	H28	H29	H30																																	
ぶしゅかん生産量	15.1t	22.1t	26.1t	23.3t	28.1t																																		
栗生産量	13.0t	16.0t	22.0t	18.0t	16.1t																																		
四万十農法米生産量	4.92t	11.94t	29.6t	33t	33t																																		
ゆず生産量	445.0t	310.0t	486.0t	384.0t	490.0t																																		
② 地元農畜産物の利用・販売促進	<b>【施策1】 農畜産物の利用促進</b> ○学校給食への市内農産物供給の取組み ○道の駅「よって西土佐」整備（H30売上199,712千円、入込客186,924人（テナント含む）） ★道の駅よって西土佐で栽培講習会、フェア等を実施し地元消費拡大 <b>【施策2】 ブランド化の確立と販売促進</b> ●既存商品の磨き上げ、販促資材作製等（市産振補助金など） ●県外商談会や催事等で、消費者へのPRなど販促活動を実施（地方創生推進交付金など） <b>【施策3】 有機農業の推進</b> ○有機農業等総合支援事業の実施（たい肥の購入補助）	直販所機能を有した道の駅整備や地元消費拡大フェア、戦略品目を中心とするブランド化の取り組みなどにより、農畜産物等直販所の販売額は年々増加している。学校給食への農産物利用促進は、供給体制や受入れ基準などの問題から伸び悩んでいる。 <b>【課題】</b> ・地元農産物のブランド化と市内外の認知度の向上 ・公共施設等への農産物の供給体制整備など	<b>【施策1】</b> ④直販機能の強化【農AP15】 <b>【施策2】</b> ④新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進など【農AP16】 ④しまんとリバーベキュープロジェクトの実施【農AP17ほか】	<b>四万十市農業産出額（推計）と主な品目</b> <table border="1"> <caption>四万十市農業産出額（推計）と主な品目 (単位: 千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>農業産出額</th> <th>果実</th> <th>米</th> <th>野菜</th> <th>肉用牛</th> <th>乳用牛</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>340</td> <td>40</td> <td>92</td> <td>177</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>348</td> <td>40</td> <td>86</td> <td>190</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>401</td> <td>48</td> <td>105</td> <td>217</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>431</td> <td>49</td> <td>114</td> <td>237</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	年度	農業産出額	果実	米	野菜	肉用牛	乳用牛	平成26年度	340	40	92	177	10	3	平成27年度	348	40	86	190	10	4	平成28年度	401	48	105	217	10	3	平成29年度	431	49	114	237	10	3
年度	農業産出額	果実	米	野菜	肉用牛	乳用牛																																	
平成26年度	340	40	92	177	10	3																																	
平成27年度	348	40	86	190	10	4																																	
平成28年度	401	48	105	217	10	3																																	
平成29年度	431	49	114	237	10	3																																	
③ 担い手の確保育成	<b>【施策1】 新規就農者の確保・育成</b> ○農業次世代人材投資事業の実施 ○新規就農者等支援チーム（県、JA、市）による就農の包括的支援 ○空き農地、空きハウスを関係機関が連携して農業者に斡旋 ○移住相談フェア等でIUTターンの新規就農者を誘致 <b>【施策2】 認定農業者の育成</b> ○県、JA、市で認定農業者のフォローアップ ○栽培技術や農業経営に関する研修を実施（認定農業者連絡協議会） ○認定農業者数（H25:127人⇒H30:139人） <b>【施策3】 集落営農の推進（再掲：戦略1に記載）</b>	国の農業研修事業や県とJA、市による連携した農業者へのフォローアップにより、毎年3名程度の研修生を受け入れ、認定農業者や集落営農組織も増加している。 <b>【課題】</b> ・就農（研修）については多様なニーズに対応していく必要がある ・就農時の農地確保 ・認定農業者の高齢化 など	<b>【施策1】</b> ④新規就農者の研修支援【農AP20】 ・産地提案書の策定（中村地域） <b>【施策2】</b> ④認定農業者等のフォローアップの強化【農AP24】	<b>農水産物等直販所の状況</b> <table border="1"> <caption>農水産物等直販所の状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>販売額 (百万円)</th> <th>店舗数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年</td> <td>1,156</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H26年</td> <td>1,189</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H27年</td> <td>1,237</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H28年</td> <td>1,303</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>1,312</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	年度	販売額 (百万円)	店舗数	H25年	1,156	16	H26年	1,189	15	H27年	1,237	15	H28年	1,303	15	H29年	1,312	16																	
	年度	販売額 (百万円)	店舗数																																				
H25年	1,156	16																																					
H26年	1,189	15																																					
H27年	1,237	15																																					
H28年	1,303	15																																					
H29年	1,312	16																																					
④ 農地の利用促進	<b>【施策1】 農地の利用調整</b> ○農地中間管理機構を活用した農地集積 H27~H30 累計面積 452,445.74㎡ うち集落営農組織 273,729.74㎡ ○ほ場整備を実施（入田地区、三里地区、利岡地区） <b>【施策2】 耕作放棄地対策</b> ○中山間地域直接支払制度の実施（H30協定面積:518.9ha） ○多面的機能支払制度の実施（H30協定面積:1,487.8ha） ○遊休農地へぶしゅかん、栗の苗木を新植	農家戸数が減少し、耕地面積は減少しているが、中山間直払制度等の協定面積を確保し耕作放棄地を未然に防いでいる。また、計画的に圃場整備を進め、整備面積は目標を超えている。 <b>【課題】</b> ・農地を利用保全する上で、農業者の高齢化と後継者不足 など	<b>【施策1】</b> ④人・農地プランの実質化【農AP25】 ④基盤整備の推進【農AP26】 <b>【施策2】</b> ④耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域直接支払制度、多面的機能支払制度の実施	<b>耕地面積及び圃場整備面積</b> <table border="1"> <caption>耕地面積及び圃場整備面積 (単位: ha)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>田耕地面積</th> <th>畑耕地面積</th> <th>圃場整備面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年</td> <td>1,820</td> <td>405</td> <td>1,064.9</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>1,820</td> <td>402</td> <td>1,070.4</td> </tr> <tr> <td>平成28年</td> <td>1,800</td> <td>400</td> <td>1,081.1</td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>1,790</td> <td>397</td> <td>1,096.4</td> </tr> <tr> <td>平成30年</td> <td>1,780</td> <td>397</td> <td>1,114.4</td> </tr> </tbody> </table>	年度	田耕地面積	畑耕地面積	圃場整備面積	平成26年	1,820	405	1,064.9	平成27年	1,820	402	1,070.4	平成28年	1,800	400	1,081.1	平成29年	1,790	397	1,096.4	平成30年	1,780	397	1,114.4											
年度	田耕地面積	畑耕地面積	圃場整備面積																																				
平成26年	1,820	405	1,064.9																																				
平成27年	1,820	402	1,070.4																																				
平成28年	1,800	400	1,081.1																																				
平成29年	1,790	397	1,096.4																																				
平成30年	1,780	397	1,114.4																																				

# 2 林業分野

戦略	主な取り組み (H27~H31)	取組み効果及び課題等	新たな取り組み等	主な指標																																										
① 四万十の山づくり	<p><b>【施策1】 長期的視点に立った産地づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林業事業者による森林経営計画の作成や提案型集約化施業（森の工場）による計画的な森林管理・経営の実施（H30 工場認定面積：3,100ha）</li> <li>○四万十ヒノキブランド化協議会を通じたヒノキ産地の情報発信</li> <li>○四万十ヒノキの家やフェア等でのPR活動</li> </ul> <p><b>【施策2】 長伐期施業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市有林で長伐期施業を実践</li> <li>○長伐期施業の講習会の実施</li> </ul> <p><b>【施策3】 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市有林で搬出間伐、再造林、防護ネット設置事業を実施</li> <li>○高性能林業機械の購入及び機械レンタルの支援（県原木増産推進事業）</li> <li>○提案型集約化施業（森の工場）の推進や各種支援事業の実施</li> </ul> <p><b>【施策4】 林業事業者や担い手の確保、育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林業事業者での新規雇用や新就業者研修への参加（緑の雇用）</li> <li>○林業技術者研修、安全講習の開催</li> </ul>	<p>提案型集約化施業の推進や高性能林業機械の導入、搬出間伐などに取り組みにより、原木生産量が増加傾向で目標値を超えている。また、国の緑の雇用制度を活用するなど林業事業者は増加傾向にある。その他、四万十ヒノキブランド化協議会を中心としたヒノキのブランド化や長伐期施業の推進、自伐林家への支援なども継続的に取り組んでいるが、ヒノキ産地や長伐期施業、木材・木工製品の生産強化等には弱みがある。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林蓄積量に応じた原木生産の拡大</li> <li>・林業担い手の確保</li> <li>・長伐期施業の啓発と普及 など</li> </ul>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■森林資源の現状把握とデータ管理の徹底【林AP2】 ※森林環境譲与税関連</li> <li>■未整備林の整備促進【林AP3】 ※森林環境譲与税関連</li> </ul> <p><b>【施策3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践【林AP6】</li> </ul> <p><b>【施策4】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■林業事業者、林業技術者の育成【林AP9】 ※森林環境譲与税関連</li> </ul>	<p><b>原木生産量（国有林含む）の推移</b></p> <table border="1"> <caption>原木生産量（国有林含む）の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ヒノキ</th> <th>スギ</th> <th>その他(広葉樹等)</th> <th>バイオマス関連</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24年</td> <td>1,743</td> <td>9,125</td> <td>25,779</td> <td>46,647</td> </tr> <tr> <td>H25年</td> <td>22,827</td> <td>40,266</td> <td>75,373</td> <td>75,373</td> </tr> <tr> <td>H26年</td> <td>19,165</td> <td>54,310</td> <td>93,790</td> <td>93,790</td> </tr> <tr> <td>H27年</td> <td>13,451</td> <td>22,186</td> <td>52,540</td> <td>6,035</td> </tr> <tr> <td>H28年</td> <td>10,841</td> <td>21,999</td> <td>57,146</td> <td>8,645</td> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>4,752</td> <td>25,655</td> <td>71,945</td> <td>1,524</td> </tr> </tbody> </table>	年度	ヒノキ	スギ	その他(広葉樹等)	バイオマス関連	合計	H24年	1,743	9,125	25,779	46,647	H25年	22,827	40,266	75,373	75,373	H26年	19,165	54,310	93,790	93,790	H27年	13,451	22,186	52,540	6,035	H28年	10,841	21,999	57,146	8,645	H29年	4,752	25,655	71,945	1,524						
年度	ヒノキ	スギ	その他(広葉樹等)	バイオマス関連	合計																																									
H24年	1,743	9,125	25,779	46,647																																										
H25年	22,827	40,266	75,373	75,373																																										
H26年	19,165	54,310	93,790	93,790																																										
H27年	13,451	22,186	52,540	6,035																																										
H28年	10,841	21,999	57,146	8,645																																										
H29年	4,752	25,655	71,945	1,524																																										
② 供給体制の強化	<p><b>【施策1】 加工事業者の生産力等強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フェア等での加工品のPR</li> <li>○四万十ヒノキブランド化推進協議会での連携やPR等 (のぼり旗・コースターでのPR、四万十ヒノキの定義・品質管理目標設定、協議会独自の補助制度創設など)</li> </ul> <p><b>【施策2】 供給体制の効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幡多流域林業活性化センターでの協議</li> </ul>	<p>四万十ヒノキブランド化協議会等で取組みを行っているが、木材等の販路拡大までは至っていない。供給体制強化は、業界内の調整が難しく、木材流通ネットワークの構築やハード整備には至っていない。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材の需要拡大及び供給・流通体制の確立 など</li> </ul>	<p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■木材流通における事業者間の連携強化【林AP13】</li> </ul>	<p><b>四万十市林業就業者数（年代別）</b></p> <table border="1"> <caption>四万十市林業就業者数（年代別）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>20~29歳</th> <th>30~39歳</th> <th>40~49歳</th> <th>50~59歳</th> <th>60歳以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年</td> <td>25</td> <td>43</td> <td>29</td> <td>38</td> <td>85</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>H26年</td> <td>23</td> <td>39</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>85</td> <td>216</td> </tr> <tr> <td>H27年</td> <td>21</td> <td>45</td> <td>34</td> <td>37</td> <td>101</td> <td>238</td> </tr> <tr> <td>H28年</td> <td>18</td> <td>50</td> <td>35</td> <td>39</td> <td>117</td> <td>259</td> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>13</td> <td>52</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>116</td> <td>260</td> </tr> </tbody> </table>	年度	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	合計	H25年	25	43	29	38	85	220	H26年	23	39	29	40	85	216	H27年	21	45	34	37	101	238	H28年	18	50	35	39	117	259	H29年	13	52	39	40	116	260
年度	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	合計																																								
H25年	25	43	29	38	85	220																																								
H26年	23	39	29	40	85	216																																								
H27年	21	45	34	37	101	238																																								
H28年	18	50	35	39	117	259																																								
H29年	13	52	39	40	116	260																																								
③ 市産材の利用促進と販売力の強化	<p><b>【施策1】 市産材の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公共建築物に率先して市産材等を使用（H27-H30:16 施設 782 m³）</li> <li>○木造住宅建築に市産材使用の支援（H27-H30 市産材利用促進事業:109 件）</li> <li>○フェア等での加工品のPR</li> </ul> <p><b>【施策2】 木質バイオマス利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書の発行）</li> </ul> <p><b>【施策3】 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○四万十ヒノキブランド化推進協議会での取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携やPR等（戦略②）</li> <li>・製品取扱い登録企業の募集（H31.3:14 社）</li> <li>・強度・含水率等の品質試験の実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>公共建築物や住宅建築時の市産材使用の補助事業等で市産材の利用促進が図られている。販売力強化等は、四万十ヒノキブランド協議会で取り組んでいるが、知名度向上には至っていない。木質バイオマスポイラーの普及は、林地残材搬出経費や原油価格の安定によりコスト高であることなどから促進が困難な状態。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市産材利用の啓発・情報発信の強化</li> <li>・住宅建築時の市産材使用の拡大（市産材利用促進事業の内容精査）</li> <li>・ブランド化推進のための関係団体ネットワークの構築 など</li> </ul>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■木造住宅建築への支援【林AP14】</li> <li>■しまんとリバー・ベ・キューブプロジェクトの実施【林AP15】</li> </ul> <p><b>【施策3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■四万十ヒノキのブランド化の推進</li> </ul>	<p><b>木材・木製品製造品出荷額等と作業道整備</b></p> <table border="1"> <caption>木材・木製品製造品出荷額等と作業道整備</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>木材・木製品製造品出荷額等</th> <th>作業道</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年</td> <td>795百万円</td> <td>710km</td> </tr> <tr> <td>H26年</td> <td>833百万円</td> <td>740km</td> </tr> <tr> <td>H27年</td> <td>855百万円</td> <td>766km</td> </tr> <tr> <td>H28年</td> <td>914百万円</td> <td>802km</td> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>805百万円</td> <td>836km</td> </tr> </tbody> </table>	年度	木材・木製品製造品出荷額等	作業道	H25年	795百万円	710km	H26年	833百万円	740km	H27年	855百万円	766km	H28年	914百万円	802km	H29年	805百万円	836km																								
年度	木材・木製品製造品出荷額等	作業道																																												
H25年	795百万円	710km																																												
H26年	833百万円	740km																																												
H27年	855百万円	766km																																												
H28年	914百万円	802km																																												
H29年	805百万円	836km																																												
④ 健全な森づくり	<p><b>【施策1】 人と鳥獣の良好・適正な環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規狩猟者講習費補助（H27~H30 合計 53 名）</li> <li>○鳥獣害対策：防護ネット、柵の設置、有害鳥獣捕獲奨励金</li> </ul> <p><b>【施策2】 森のものの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○しいたけ原木購入補助（H27~H29）</li> </ul>	<p>鳥獣害対策として、有害鳥獣捕獲奨励金制度や防護ネット、防護柵設置の支援などを実施。有害鳥獣の捕獲頭数は減少しているが、生息数の把握が難しく、本年度県による生息数調査が実施され検証する予定。特用林産物は、生産者の高齢化・減少に伴い生産量は減少傾向。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狩猟者の高齢化と新規狩猟者確保</li> <li>・特用林産物生産者の高齢化と特用林産物活用の啓発 など</li> </ul>	<p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■特用林産物の生産活動への支援とPR【林AP23】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・しいたけの原木購入支援等</li> <li>・特用林産物を活用した新商品開発、販売</li> </ul> </li> </ul>																																											

# 3 水産業分野

戦略	主な取り組み (H27~H31)	取り組み効果及び課題等	新たな取り組み等	主な指標																																														
① 水産資源の回復・生産量UP	<p><b>【施策1】天然水産資源の回復、増殖</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★アユやスジアオノリの資源量減少の調査・研究（高知大学連携事業）</li> <li>○スジアオノリ漁場整備（下流漁協）、アユ産卵場整備（四万十川漁連）</li> <li>○イセエビ漁場整備（4年に1回、下田漁協）</li> </ul> <p><b>【施策2】栽培漁業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★スジアオノリ自然栽培（養殖）推進事業（高知大学連携事業）</li> <li>○各種苗放流の実施（アユ、ウナギ、ツガニ、アメゴ、ヒラメ）</li> <li>○スジアオノリの生産工程マニュアル作成・品質管理の徹底（下流漁協）</li> </ul> <p><b>【施策3】地域に根差した資源管理の仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○えび類の採捕禁止期間の設定（9月～3月：県内水面漁場管理委員会）</li> <li>○禁漁期間等の周知啓発</li> </ul> <p><b>【施策4】担い手の確保・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的取り組みなし</li> </ul>	<p>高知大学と連携し始めてスジアオノリの自然栽培に取り組んだが、河川環境などの影響で安定的な収穫に至っていない。資源量減少の研究、漁場整備、種苗放流などを継続的に実施しているが資源の回復等には至っていないものの、新しい取り組みとしてH30年から県と連携し、えび類の禁漁期間を設定している。担い手確保は、内水面漁業には国などの支援メニューが無いことなどから具体的な取り組みが出来ていない。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回復には自然環境の影響が大きいことなどから原因の特定や対策が難しい</li> <li>・内水・海面漁業の担い手の確保育成対策など</li> </ul>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漁場環境、資源量等の調査・研究及び保全整備の支援など【水 AP 1、2ほか】</li> </ul> <p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■栽培漁業の推進</li> <li>・種苗放流、アオサ、スジアオノリなど【水 AP 3、4、5】</li> </ul> <p><b>【施策4】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新規就業者のための研修・フォローアップ【水 AP 8】</li> </ul>	<p><b>あゆ・うなぎ漁獲量推移</b></p> <table border="1"> <caption>あゆ・うなぎ漁獲量推移 (単位: t)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>あゆ</th> <th>うなぎ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20年</td><td>36</td><td>19</td></tr> <tr><td>H21年</td><td>49</td><td>8</td></tr> <tr><td>H22年</td><td>20</td><td>7</td></tr> <tr><td>H23年</td><td>22</td><td>6</td></tr> <tr><td>H24年</td><td>24</td><td>4</td></tr> <tr><td>H25年</td><td>14</td><td>4</td></tr> <tr><td>H26年</td><td>16</td><td>4</td></tr> <tr><td>H27年</td><td>25</td><td>4</td></tr> <tr><td>H28年</td><td>16</td><td>3</td></tr> <tr><td>H29年</td><td>27</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	年	あゆ	うなぎ	H20年	36	19	H21年	49	8	H22年	20	7	H23年	22	6	H24年	24	4	H25年	14	4	H26年	16	4	H27年	25	4	H28年	16	3	H29年	27	3													
年	あゆ	うなぎ																																																
H20年	36	19																																																
H21年	49	8																																																
H22年	20	7																																																
H23年	22	6																																																
H24年	24	4																																																
H25年	14	4																																																
H26年	16	4																																																
H27年	25	4																																																
H28年	16	3																																																
H29年	27	3																																																
② 水産物の加工、販売促進	<p><b>【施策1】水産物の高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未利用資源の活用、販売（ナマズ、スッポン）</li> <li>○新商品開発</li> <li>・「鮎のコンフィ」（クラウドファンディング）</li> <li>・鮎の燻製、鮎の姿寿司、ツガニ塩、青さ塩など（H27-30で12品）</li> <li>○既存商品を真空パック個別冷凍販売（ツガニ、スッポンなど）</li> <li>○四万十天然鮎を活魚で出荷（築地、豊洲市場）</li> </ul> <p><b>【施策2】販売力の強化と販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地産地消・地産外商活動（北の恵み食べマルシェ、ふるさとまつり、枚方物産展、うまいもの商店街、産業祭など）</li> <li>○あゆ市場に地域おこし協力隊を1名配置（H29.11~）</li> <li>○四万十鮎ブランド化の取り組み開始（四万十川漁業振興協議会）</li> </ul> <p><b>【施策3】魚食文化の磨き上げと発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グルメイベント等での商品販売・PR（施策2に記載）</li> <li>★食のパフレット（四万十の恵み）を作成</li> </ul>	<p>道の駅によって西土佐や鮎市場などが中心になり、新商品の開発や地元消費フェア、外商活動などに積極的に取り組んでいる。また、四万十川漁業振興協議会で四万十川流域での四万十鮎のブランド化の取り組みが始まっている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産資源の安定的な確保</li> <li>・四万十鮎のブランド化の確立と販路拡大</li> <li>・魚食文化の効果的な情報発信</li> </ul>	<p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■四万十鮎ブランド化推進【水 AP12】</li> </ul> <p><b>【施策3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■しまんとリバー・ベキュープロジェクトの実施【水 AP12、13】</li> </ul>	<p><b>藻類漁獲量の推移</b></p> <table border="1"> <caption>藻類漁獲量の推移 (単位: t)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>スジアオノリ</th> <th>ヒトエグサ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20年</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>H21年</td><td>2</td><td>12</td></tr> <tr><td>H22年</td><td>2</td><td>9</td></tr> <tr><td>H23年</td><td>0.4</td><td>13</td></tr> <tr><td>H24年</td><td>1</td><td>9</td></tr> <tr><td>H25年</td><td>10</td><td>18</td></tr> <tr><td>H26年</td><td>0.4</td><td>18</td></tr> <tr><td>H27年</td><td>4</td><td>11</td></tr> <tr><td>H28年</td><td>0.3</td><td>5</td></tr> <tr><td>H29年</td><td>3</td><td>7</td></tr> <tr><td>H30年</td><td>0</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>	年	スジアオノリ	ヒトエグサ	H20年	15	15	H21年	2	12	H22年	2	9	H23年	0.4	13	H24年	1	9	H25年	10	18	H26年	0.4	18	H27年	4	11	H28年	0.3	5	H29年	3	7	H30年	0	8										
年	スジアオノリ	ヒトエグサ																																																
H20年	15	15																																																
H21年	2	12																																																
H22年	2	9																																																
H23年	0.4	13																																																
H24年	1	9																																																
H25年	10	18																																																
H26年	0.4	18																																																
H27年	4	11																																																
H28年	0.3	5																																																
H29年	3	7																																																
H30年	0	8																																																
③ 水産資源を活用した交流の拡大	<p><b>【施策1】体験交流の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体験教室、川漁体験学習、種苗放流体験等の開催（四万十の日実行委員会、四万十川中央漁協、四万十川漁業振興協議会など）</li> <li>○川遊びガイド下流版（渡川水系水難事故防止連絡会）を作成</li> <li>○川降りマップ、沈下橋マップ（市作成、西土佐地域）を観光施設等で配布</li> <li>◆体験商品造成、磨き上げ</li> <li>・川漁師体験（投網、釣り、はえ縄、柴漬け、石ぐろ、櫓漕ぎ体験など）</li> <li>・西土佐火振り漁体験（火振り漁、地元料理）</li> </ul>	<p>四万十川中央漁協などの協力により、幼稚園、小・中学校などでの漁業体験や種苗放流体験などが積極的に行われ、川に触れることの少なくなった子供たちに水産業への関心や環境などへの意識向上が図られている。</p> <p>また、水産業を視点とした体験メニューの開発などが行われている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光と連携した体験商品づくりと持続的な取り組み</li> <li>・水産、観光、環境、教育など分野を超えた連携</li> </ul>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漁業体験メニューの開発【水 AP15】</li> <li>■体験教室等の開催【水 AP16】</li> </ul>	<p><b>海面漁業者数・漁船隻数の推移</b></p> <table border="1"> <caption>海面漁業者数・漁船隻数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>漁業者</th> <th>漁船数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H10年</td><td>87人</td><td>100隻</td></tr> <tr><td>H15年</td><td>85人</td><td>103隻</td></tr> <tr><td>H20年</td><td>116人</td><td>159隻</td></tr> <tr><td>H25年</td><td>109人</td><td>132隻</td></tr> <tr><td>H30年</td><td>46人</td><td>65隻</td></tr> </tbody> </table> <p><b>四万十市海面漁業漁獲量の推移</b></p> <table border="1"> <caption>四万十市海面漁業漁獲量の推移 (単位: t)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>漁獲量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17年</td><td>88</td></tr> <tr><td>H18年</td><td>92</td></tr> <tr><td>H19年</td><td>36</td></tr> <tr><td>H20年</td><td>43</td></tr> <tr><td>H21年</td><td>55</td></tr> <tr><td>H22年</td><td>43</td></tr> <tr><td>H23年</td><td>21</td></tr> <tr><td>H24年</td><td>30</td></tr> <tr><td>H25年</td><td>24</td></tr> <tr><td>H26年</td><td>22</td></tr> <tr><td>H27年</td><td>17</td></tr> <tr><td>H28年</td><td>17</td></tr> <tr><td>H29年</td><td>14</td></tr> </tbody> </table>	年	漁業者	漁船数	H10年	87人	100隻	H15年	85人	103隻	H20年	116人	159隻	H25年	109人	132隻	H30年	46人	65隻	年	漁獲量	H17年	88	H18年	92	H19年	36	H20年	43	H21年	55	H22年	43	H23年	21	H24年	30	H25年	24	H26年	22	H27年	17	H28年	17	H29年	14
年	漁業者	漁船数																																																
H10年	87人	100隻																																																
H15年	85人	103隻																																																
H20年	116人	159隻																																																
H25年	109人	132隻																																																
H30年	46人	65隻																																																
年	漁獲量																																																	
H17年	88																																																	
H18年	92																																																	
H19年	36																																																	
H20年	43																																																	
H21年	55																																																	
H22年	43																																																	
H23年	21																																																	
H24年	30																																																	
H25年	24																																																	
H26年	22																																																	
H27年	17																																																	
H28年	17																																																	
H29年	14																																																	

# 4 商工業分野

戦略	主な取り組み (H27~H31)	取り組み効果及び課題等	新たな取り組み等	主な指標																																																
① 顧客に選ばれる商工業の振興	<p><b>【施策1】 地域資源を活かした商品開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人材育成や商品開発研修等実施(地域商品研究会、西土佐商工会など)</li> <li>■商品開発ワークショップの開催(道の駅よって西土佐)</li> <li>○地元販売フェア等(公家行列、土曜夜市、産業祭、うまいもの商店街、道の駅フェアなど)</li> <li>●都市圏の大規模商談会、物産展への出展及び外商活動             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グルメ&amp;デザインスタイルショー、スーパーマーケットトレードショーなど</li> <li>・全国交流物産展、枚方物産展、北の恵み食べマルシェ、ふるさとまつり、松山大街道、幡多フェアなど</li> </ul> </li> <li>★幡多広域地産外商推進協議会を設立し外商活動を展開</li> </ul> <p><b>【施策2】 四万十の“食”文化の磨き上げと発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★食文化磨き上げ研究会を設立</li> <li>★食に関するパンフレットを作成しPR(四万十の食、四万十の恵み)</li> <li>◆飲食店でのメニュー多言語化(H30~)</li> <li>●食のイベント等開催(道の駅フェア、花紀行、ぶしゅかん解禁祭など)</li> <li>●商談会・物産展等で食のPR(施策1)</li> </ul> <p><b>【施策3】 地震防災対策における建設事業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業を実施</li> <li>○住宅耐震改修等促進事業の実施</li> </ul>	<p>道の駅整備や市産業振興補助金、地方創生事業等の活用により新商品開発、地元消費拡大フェア、外商活動や食の発信が積極的に行われ、商業年間商品販売額及び食品を中心とした市内製造品出荷額等は上昇傾向で推移している。</p> <p>また、地震防災対策における建設事業の推進が図られ、窯業・土石の製造品出荷額が上昇傾向となり、施設の耐震化や住宅の耐震化等も進んでいる。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した商談活動等による販路の確保</li> <li>・“食”を活かした観光に連動した販促や情報発信の強化継続</li> <li>・加工食品の衛生管理(HACCP対応)、食品表示の適正化などへの対応</li> <li>・建設業界の労働力不足</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地元消費拡大フェアの開催【商AP4】</li> <li>■しまんとリバー・ベキュープロジェクトの実施【商AP8、18】</li> <li>■新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興【商AP2】</li> </ul> <p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●県外事業者等の拠点を活用した外商活動【商AP8】</li> </ul> <p><b>【施策3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保</li> </ul>	<p><b>商業年間商品販売額の推移</b></p> <p>(百万円)</p> <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>卸売業年間商品販売額</th><th>小売業年間商品販売額</th><th>合計</th></tr> <tr><td>H15</td><td>36,266</td><td>51,313</td><td>87,579</td></tr> <tr><td>H18</td><td>32,174</td><td>47,636</td><td>79,809</td></tr> <tr><td>H23</td><td>17,269</td><td>39,564</td><td>56,833</td></tr> <tr><td>H25</td><td>24,709</td><td>42,936</td><td>67,645</td></tr> <tr><td>H27</td><td>22,782</td><td>46,289</td><td>69,071</td></tr> </table>	年次	卸売業年間商品販売額	小売業年間商品販売額	合計	H15	36,266	51,313	87,579	H18	32,174	47,636	79,809	H23	17,269	39,564	56,833	H25	24,709	42,936	67,645	H27	22,782	46,289	69,071																								
年次	卸売業年間商品販売額	小売業年間商品販売額	合計																																																	
H15	36,266	51,313	87,579																																																	
H18	32,174	47,636	79,809																																																	
H23	17,269	39,564	56,833																																																	
H25	24,709	42,936	67,645																																																	
H27	22,782	46,289	69,071																																																	
② 中心市街地・商店街等の活性化	<p><b>【施策1】 中心市街地、商店街の魅力・賑わいづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■土豫銀行跡地のにぎわい拠点づくり事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29基本設計H30、実施設計、R1施設整備(四万十にぎわい株)</li> </ul> </li> <li>○中心市街地でのイベント開催(公家行列、市民祭、よさこい四万十、一條大祭、産業祭、土曜夜市など)</li> <li>○商店街の活性化             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆まちあそび人生ゲームの開催(四万十玉姫の会)</li> <li>・空き店舗の改修、チャレンジショップ事業への支援</li> <li>・フィギュア展、はたのう市場、おかみさんまつり等開催</li> <li>・中心商店街活性化協議会設立</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【施策2】 創業や経営革新への支援強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営改善普及事業の実施(中村商工会議所、西土佐商工会、市)</li> <li>○導入促進基本計画の策定(生産性特別措置法)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端設備等導入計画を12件認定(H30~R1.8.30)</li> </ul> </li> <li>○チャレンジショップ事業の実施</li> </ul>	<p>土豫銀行跡地の拠点づくりが着実に進行している。併せて商店街の活性化策として、既存の公家行列などを実施しながら、「まちあそび人生ゲーム」や「フィギュア展」、「はたのう市場」など新しい取り組みが行われ、商店街での歩行者通行量が増加傾向である。</p> <p>また、空き店舗対策やチャレンジショップ事業、商工会議所と商工会を中心に経営のトータルサポートなど事業者や経営者のための取り組みも継続的に実施されている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点施設への集客と中心市街地(中心商店街)への流動化</li> <li>・空き店舗の活用や事業承継</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新たな拠点(旧土豫銀行跡地)による情報発信強化と賑わいの創出【商AP10】</li> <li>■イベント開催等活性化の仕組みづくり【商AP12】</li> <li>■空き店舗対策【商AP13】</li> </ul> <p><b>【施策2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■経営指導などサポート体制の強化【商AP14】</li> </ul>	<p><b>四万十市の製造品出荷額等の推移(上位3分類)</b></p> <p>(百万円)</p> <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>食料品</th><th>窯業・土石</th><th>木材・木製品</th><th>合計</th></tr> <tr><td>H24年</td><td>4,578</td><td>1,357</td><td>755</td><td>6,690</td></tr> <tr><td>H25年</td><td>4,766</td><td>1,561</td><td>795</td><td>7,122</td></tr> <tr><td>H26年</td><td>5,399</td><td>1,612</td><td>833</td><td>7,844</td></tr> <tr><td>H27年</td><td>5,939</td><td>1,277</td><td>855</td><td>8,071</td></tr> <tr><td>H28年</td><td>6,748</td><td>1,726</td><td>914</td><td>9,388</td></tr> <tr><td>H29年</td><td>7,287</td><td>2,039</td><td>805</td><td>10,131</td></tr> </table>	年次	食料品	窯業・土石	木材・木製品	合計	H24年	4,578	1,357	755	6,690	H25年	4,766	1,561	795	7,122	H26年	5,399	1,612	833	7,844	H27年	5,939	1,277	855	8,071	H28年	6,748	1,726	914	9,388	H29年	7,287	2,039	805	10,131													
年次	食料品	窯業・土石	木材・木製品	合計																																																
H24年	4,578	1,357	755	6,690																																																
H25年	4,766	1,561	795	7,122																																																
H26年	5,399	1,612	833	7,844																																																
H27年	5,939	1,277	855	8,071																																																
H28年	6,748	1,726	914	9,388																																																
H29年	7,287	2,039	805	10,131																																																
③ 中山間地域の商業機能の確保	<p><b>【施策1】 小さな(田舎)ビジネスの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★地域商社「株西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業(道の駅拠点)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月地元食材フェアの開催、松山大街道等への外商活動</li> <li>・栽培講習会、新商品開発、集出荷事業</li> <li>・旭川市やイタリアのワイナリーと交流・連携</li> </ul> </li> <li>○集落グループ等の地元商品開発や外商活動など(みやの里、中組絆の会、四万十のしずく生産組合など)</li> <li>○地域おこし協力隊の配置(富山、大川筋・後川、須崎、奥屋内、大宮地区)</li> </ul>	<p>道の駅が整備され、農産物生産の支援、新商品開発、地元販売や外商活動などが行われ、レジ通過者数や販売額は目標を上回っている。また、地域おこし協力隊の配置や富山地域での懇談会など、中山間地域の振興を継続的に実施している。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅を中心とした集客力の維持拡大</li> <li>・中山間地域の高齢化・過疎化による経済活動の低下</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■道の駅よって西土佐機能拡充(リバー・ベキュープロジェクトなど)【商AP18】</li> <li>■四万十牛を核とした産業振興【商AP18】</li> </ul>	<p><b>商店街歩行者通行量(平日)</b></p> <p>7,000人</p> <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>東下町</th><th>天神橋</th><th>一条通</th><th>京町</th><th>大橋通</th><th>栄町</th><th>合計</th></tr> <tr><td>平成26年</td><td>568人</td><td>1,969人</td><td>695人</td><td>527人</td><td>378人</td><td>639人</td><td>4,776人</td></tr> <tr><td>平成27年</td><td>522人</td><td>1,639人</td><td>856人</td><td>652人</td><td>467人</td><td>455人</td><td>4,591人</td></tr> <tr><td>平成28年</td><td>448人</td><td>2,059人</td><td>729人</td><td>409人</td><td>307人</td><td>724人</td><td>4,676人</td></tr> <tr><td>平成29年</td><td>793人</td><td>1,797人</td><td>751人</td><td>547人</td><td>574人</td><td>1,416人</td><td>5,878人</td></tr> <tr><td>平成30年</td><td>391人</td><td>1,927人</td><td>447人</td><td>487人</td><td>366人</td><td>2,590人</td><td>6,208人</td></tr> </table>	年次	東下町	天神橋	一条通	京町	大橋通	栄町	合計	平成26年	568人	1,969人	695人	527人	378人	639人	4,776人	平成27年	522人	1,639人	856人	652人	467人	455人	4,591人	平成28年	448人	2,059人	729人	409人	307人	724人	4,676人	平成29年	793人	1,797人	751人	547人	574人	1,416人	5,878人	平成30年	391人	1,927人	447人	487人	366人	2,590人	6,208人
年次	東下町	天神橋	一条通	京町	大橋通	栄町	合計																																													
平成26年	568人	1,969人	695人	527人	378人	639人	4,776人																																													
平成27年	522人	1,639人	856人	652人	467人	455人	4,591人																																													
平成28年	448人	2,059人	729人	409人	307人	724人	4,676人																																													
平成29年	793人	1,797人	751人	547人	574人	1,416人	5,878人																																													
平成30年	391人	1,927人	447人	487人	366人	2,590人	6,208人																																													
④ 企業誘致	<p><b>【施策1】 情報通信関連産業の誘致促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○企業誘致対策             <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問、県と連携したリサーチ、遊休公共施設の調査など</li> </ul> </li> <li>○HTC四万十センター(株)創業(H26~、旧田野川小学校)</li> <li>★コールセンター等立地促進事業(H27~)</li> <li>○北川村ゆず王国四万十加工工場創業(H27~、西土佐西ヶ方)</li> <li>○シェアオフィス等企業立地促進事業(R1~)</li> <li>○デジタルオペレーションセンター四万十創業予定(R2.1~)</li> </ul>	<p>県と連携してリサーチや企業訪問を実施し、2社の企業誘致に成功。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業側のニーズと本市の求める企業像を明確にした誘致活動</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>【施策1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■誘致に向けたリサーチ【商AP19】</li> <li>■県と連動した誘致活動の推進【商AP20】</li> </ul>	<p><b>道の駅よって西土佐売上額及びレジ通過者数</b></p> <p>240,000千円</p> <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>売上額(千円)</th><th>来場者数(千人)</th></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>206,541</td><td>214,190</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>184,443</td><td>189,205</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>199,712</td><td>186,924</td></tr> </table>	年次	売上額(千円)	来場者数(千人)	平成28年度	206,541	214,190	平成29年度	184,443	189,205	平成30年度	199,712	186,924																																				
年次	売上額(千円)	来場者数(千人)																																																		
平成28年度	206,541	214,190																																																		
平成29年度	184,443	189,205																																																		
平成30年度	199,712	186,924																																																		

# 5 観光分野

戦略	主な取り組み (H27~H31)	取組み効果及び課題等	新たな取り組み等	主な指標																												
① 滞在型の観光地づくり	<p>【施策1】地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光マーケティングリサーチの実施（観光動向、外国人アンケート調査：観光協会）</li> <li>○県外旅行業者、学校等へ誘致活動（ニーズ調査）</li> <li>○れんけいこうち広域都市圏観光客動態調査</li> <li>●観光商品造成、販売（KIMONOLOILOI、宿泊セットプランなど）</li> <li>○宿泊特典共通割引券、スタンプラリー実施（市観光協会、旅館組合）</li> </ul> <p>【施策2】広域連携による周遊観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リョーマの休日、高知家の食卓、志国高知幕末維新博との連動</li> <li>★四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業（H28～） <ul style="list-style-type: none"> <li>・はた旅体験商品を造成し、広域での観光誘客</li> </ul> </li> <li>○四万十川流域市町村観光推進連絡会、四国西南地域観光連絡協議会などで連携し観光パンフの作成や情報発信を実施</li> </ul>	<p>観光動向調査等を実施しながら観光商品の造成、県や幡多広域と連携した観光商品の造成、観光情報の発信やPR活動を実施しているが、市内宿泊者数などでは減少傾向で、周遊型、滞在型の観光を更に強化していく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズにあった周遊型、滞在型観光の仕組みづくり</li> <li>・昼食に地元料理を提供できる店舗の拡大</li> <li>・閑散期（冬季）の対策 など</li> </ul>	<p>【施策1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■観光リサーチ、観光商品の磨き上げ【観AP1、2】</li> <li>●自然体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信・販売【観AP4】</li> </ul> <p>【施策2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■広域連携による周遊観光の推進【観AP5】</li> </ul>	<p>入込客数等推移</p> <table border="1"> <caption>入込客数等推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>観光入込客数</th> <th>市内宿泊者数</th> <th>公設観光施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26年</td> <td>1,182,003人</td> <td>199,419人</td> <td>151,137人</td> </tr> <tr> <td>H27年</td> <td>1,173,511人</td> <td>213,316人</td> <td>164,857人</td> </tr> <tr> <td>H28年</td> <td>1,185,968人</td> <td>210,101人</td> <td>159,805人</td> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>1,193,182人</td> <td>196,524人</td> <td>151,827人</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>1,180,466人</td> <td>192,279人</td> <td>143,785人</td> </tr> </tbody> </table>	年	観光入込客数	市内宿泊者数	公設観光施設等	H26年	1,182,003人	199,419人	151,137人	H27年	1,173,511人	213,316人	164,857人	H28年	1,185,968人	210,101人	159,805人	H29年	1,193,182人	196,524人	151,827人	H30年	1,180,466人	192,279人	143,785人				
年	観光入込客数	市内宿泊者数	公設観光施設等																													
H26年	1,182,003人	199,419人	151,137人																													
H27年	1,173,511人	213,316人	164,857人																													
H28年	1,185,968人	210,101人	159,805人																													
H29年	1,193,182人	196,524人	151,827人																													
H30年	1,180,466人	192,279人	143,785人																													
② 観光商品の外商の推進	<p>【施策1】観光商品のセールス及び情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■シティプロモーションの展開（キャッチコピー、ロゴマーク、リピーターバッジ、エコバッグなど）</li> <li>○観光客誘致宣伝活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の商談会等に出展</li> <li>・旅行エージェント訪問（教育旅行、スポーツ合宿）</li> </ul> </li> <li>★観光PVの作成（H27、H28、H29）</li> <li>○観光パンフ、PV等で多様な媒体（SNS、動画サイト、タウン誌など）で情報発信</li> <li>○観光大使の設置（H30末時点：16名）</li> <li>★四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業（H28～） <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育旅行、スポーツツーリズム、一般旅行、国際観光の強化</li> <li>・商談会、旅行会社訪問、視察受入</li> </ul> </li> </ul>	<p>国内外での商談や、観光パンフレットやプロモーションビデオなど多様な媒体を活用したPR活動を実施。また、地方創生推進交付金を活用し、幡多広域のDMOによる広域でのセールスや情報発信を強化し観光協会のホームページアクセス数は伸びているが、観光入込客数等の増加には繋がっていない。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験型観光が多いため雨天や河川増水時の対応</li> <li>・観光商品のターゲット、テーマ、旅行形態等の明確化 など</li> </ul>	<p>【施策1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■観光商品のセールス強化【観AP6】</li> <li>■ターゲットに合わせたプロモーションの展開【観AP7】</li> <li>■しまんとリバー・パークプロジェクトの実施【観AP7】</li> </ul>	<p>外国人観光入込客数等</p> <table border="1"> <caption>外国人観光入込客数等</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>外国人観光入込客数</th> <th>二次交通利用者数</th> <th>市観光協会HPアクセス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>1,341人</td> <td>5,718人</td> <td>119,577件</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1,971人</td> <td>5,896人</td> <td>137,953件</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>3,633人</td> <td>6,311人</td> <td>105,660件</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,122人</td> <td>6,955人</td> <td>141,183件</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3,287人</td> <td>6,164人</td> <td>189,053件</td> </tr> </tbody> </table>	年	外国人観光入込客数	二次交通利用者数	市観光協会HPアクセス数	H26	1,341人	5,718人	119,577件	H27	1,971人	5,896人	137,953件	H28	3,633人	6,311人	105,660件	H29	4,122人	6,955人	141,183件	H30	3,287人	6,164人	189,053件				
年	外国人観光入込客数	二次交通利用者数	市観光協会HPアクセス数																													
H26	1,341人	5,718人	119,577件																													
H27	1,971人	5,896人	137,953件																													
H28	3,633人	6,311人	105,660件																													
H29	4,122人	6,955人	141,183件																													
H30	3,287人	6,164人	189,053件																													
③ おもてなしの向上	<p>【施策1】おもてなし環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設、宿泊施設のWi-Fi整備</li> <li>★四万十サイクルロード整備（H28～）</li> <li>★ホテル星羅四万十、かわらっこバンガロー、スケートボード場整備</li> <li>○観光案内看板設置及び多言語化</li> <li>○自然体験型観光資源強化事業（R1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十ひろばオートキャンプ場整備</li> </ul> </li> <li>○二次交通の強化（GW、夏・春休み、土日祝日） <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十川バス、しまんとトロリーバス、しまんと・あしずり号</li> </ul> </li> <li>○インバウンド対応（案内看板、ガイドブック、HP等の多言語化）</li> </ul> <p>【施策2】おもてなしサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域おこし企業人交流プログラム（ANA総合研究所）</li> <li>○おもてなし接客研修の開催</li> <li>○ボランティア活動の推進（入田ヤナギ林、トンボ自然公園の整備など）</li> </ul>	<p>国の地方創生事業などを活用した観光施設整備やWi-Fi整備、2次交通の充実、観光案内板の整備やインバウンド対策などを実施したが、観光施設等の利用者増にまでは繋がっていない。</p> <p>サービスの充実では、地域おこし企業人交流プログラムを活用した接客研修やボランティアによる観光地整備などに取り組んでいる。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次交通を利用した観光施設や宿泊施設への誘導</li> <li>・リピートにつながるサービス等の提供</li> <li>・地域の魅力が伝えられる市民の増加 など</li> </ul>	<p>【施策1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■四万十ひろば（カヌー館）のオートキャンプ場化【観AP8】</li> <li>■観光案内機能の充実【観AP10】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光窓口、案内看板、多言語化</li> </ul> </li> </ul> <p>【施策2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■おもてなし感が感じられる仕組みづくり【観AP12】</li> </ul>	<p>県内平均消費額</p> <table border="1"> <caption>県内平均消費額</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>四万十川</th> <th>足摺岬</th> <th>県内平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年</td> <td>25,213円</td> <td>28,674円</td> <td>26,065円</td> </tr> <tr> <td>平成25年</td> <td>33,001円</td> <td>31,864円</td> <td>27,073円</td> </tr> <tr> <td>平成26年</td> <td>31,556円</td> <td>29,908円</td> <td>26,796円</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>33,389円</td> <td>29,271円</td> <td>26,662円</td> </tr> <tr> <td>平成28年</td> <td>30,527円</td> <td>29,539円</td> <td>26,139円</td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>28,869円</td> <td>30,527円</td> <td>25,829円</td> </tr> </tbody> </table>	年	四万十川	足摺岬	県内平均	平成24年	25,213円	28,674円	26,065円	平成25年	33,001円	31,864円	27,073円	平成26年	31,556円	29,908円	26,796円	平成27年	33,389円	29,271円	26,662円	平成28年	30,527円	29,539円	26,139円	平成29年	28,869円	30,527円	25,829円
年	四万十川	足摺岬	県内平均																													
平成24年	25,213円	28,674円	26,065円																													
平成25年	33,001円	31,864円	27,073円																													
平成26年	31,556円	29,908円	26,796円																													
平成27年	33,389円	29,271円	26,662円																													
平成28年	30,527円	29,539円	26,139円																													
平成29年	28,869円	30,527円	25,829円																													
④ 組織力の強化とリーダーの発掘・育成	<p>【施策1】観光関連事業者のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旅行業取得職員の配置（H27～幡多広域観光協議会、H31～四万十市観光協会）</li> <li>○日本版DMOに幡多広域観光協議会が登録（H31：地域連携DMO）</li> </ul> <p>【施策2】観光人材の育成、確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○おもてなし接客研修、観光ガイド養成講座等の開催</li> <li>○体験型観光受入研究会スキルアップ研修</li> <li>○インバウンド対応（英会話教室、外国人観光客受入研修会など）</li> <li>○市内小中学校の職場体験、観光学習の実施</li> </ul>	<p>観光協会や幡多広域観光協議会の組織力強化や観光ガイド養成講座などで観光人材育成やレベルアップが定図られているが地域での観光人材は依然不足している。市内小中学校の職場体験や観光学習を受入れ将来の観光の担い手につながる取組みも実施している。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市、観光協会、幡多広域が役割を意識したそれぞれのスキルアップ</li> <li>・観光人材、組織力の不足 など</li> </ul>	<p>【施策1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■観光関連組織の役割分担と組織力の強化【観AP8】</li> </ul> <p>【施策2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地域観光リーダー、将来の担い手の育成等【観AP15、16】</li> </ul>																													